

名古屋外国語大学海外派遣プログラム成果報告書

2023年 6月 26日

学部・学科名 外国語学部・英米語学科

担当教員氏名 吉本 美佳

1. 区分	中期留学 ・ <u>語学研修</u> ・ 海外実習
2. プログラム名称	春期アイルランド研修
3. 渡航先国名	アイルランド（ダブリン）
4. 派遣期間	2023年 2月 10日（金）～ 2023年 3月 14日（火） 34日間
5. 派遣先教育機関名	ダブリンシティ大学
6. 参加学生数	30名
7. 派遣目的	現地での生活をとおして英語力を向上させるとともに、異文化への気付きを深め、異文化間コミュニケーション能力を高める。
8. 派遣内容	ダブリンシティ大学での語学研修と、午後及び週末に企画される文化施設や都市を訪れることにフィールドワークや歴史学習。またホームステイによる異文化での生活体験を含む研修。
9. 成果	帰国後のアンケートでは、研修全般に関してすべての学生が肯定的な回答をしている。また DCU での授業、ホームステイについても高い満足度がわかる。具体的には、「英語に自信が持てた。」「英語に対する意欲の高まり」という意見や「自分が成長できた部分と課題の部分が認識出来た」「卒業後の展望について決断する機会となった」など、語学力だけでなく自分の成長を感じられる機会となったことがうかがえる。
10. 備考	

以上

2022 年度春期アイルランド研修レポート

この研修で学んだことのひとつ目として、人と人のコミュニケーションです。バスを降りるときに大半の人が運転手に向かって“Thank you.”と伝える文化、初対面にも関わらず心をオープンにして意見を言う積極性、言葉によるコミュニケーションが染みついていると感じました。察するといった言葉を介さない伝達に頼りがちな日本の考え方や正解を求める問いとは違く、自己主張をしてダイレクトに伝えてそれをひとつの考え方として受け入れる文化があるからこそ間違いを恐れずに発言できるのだと思いました。他人は他人でありながらも相互に価値観を尊重する姿はとても素晴らしかったです。ふたつ目はクラスの授業を通して得た語彙力です。見えるもの聞こえるものが全て英語、そして自ら発するものも英語という環境の中で英語力を上達させるために何ができるかと考えたとき、とにかくできる人の真似をすることがインプットとアウトプットに繋がりました。先生が口に出したささいなフレーズやクラスメイトが使った単語などをホストファミリーと会話をするときに使ったりしていました。最後は、自分自身について新たに知ったことがありました。私はクラスでテキストを開いて勉強をするということよりも、自ら人や街、文化に飛び込んで体験する、感じる、触れ合うということがやりたいという気持ちに気付きました。もちろん学び続けることは必要ですが、その学びを教材からではなくリアルな生活から得たいと考えました。

私はこの研修に参加する前、これは自分にとって海外で勉強する最後の機会だと思っていました。日本に帰ってきたら就活をして残りの大学生活を送り、どこかの会社に就職する将来を考えていました。しかし、4週間アイルランドで様々な経験をして見て学んで思ったことは、今できることをやりたいということでした。そして上の段落で述べたように、リアルな環境で学びたいということを重ね合わせたとき、ワーキングホリデーという選択肢は自分のための人生をより新しく面白いものにするのではないかと思いました。そのためには今よりもさらに学び、運用能力をつける必要があります。海外で生活する楽しさを知った今、もっとその楽しさを見つけに行きたいというモチベーションが勉強への意識を高めているので、この意欲を糧に英語の上達に励みたいと考えています。この研修は私の視野を広げるきっかけとなった研修でした。

世の中には正解が一つではないものがたくさんあるため、個人の考えを聞いて受け入れて自分の意見も言葉にして発するという事はこの先どんな場面でも役に立つと考えます。中学校や高校に入ると間違いを恐れてなかなか発言しづらくなる環境は、社会に出てから良い影響は与えないと思います。人の目を気にしていたら何も進展しないし成長もしないということを体験した今だからこそ、今後就職した後や自分の考えを発表するときにしっかりと意見を伝えられる人になりたいと思いました。

2022 年度春期アイルランド研修レポート

どの国に対しても、私たちは行ったことがないところであればいろいろな先入観や偏った知識を持って入国します。アイルランドという国に対してもネットなどで調べたことを参考にしてアイルランドという国を見ました。もうどこの国だってそうかもしれないですが、アイルランドでアイルランド人だと見た目で見分ける人はいないことが私の最初の発見でした。私があまり欧米人に見慣れていないからかもしれませんが、日本にいと顔立ちや行動である程度日本人かその他のアジア人かを見分けるぐらいのことはできますが、アイルランドではそういうことはできませんでした。誰が観光客で誰が地元の人かわからないので、道を聞きたくても誰に聞けばいいのかわかりませんでした。私は逆に地元の人だと思われる人から道を聞かれました。アイルランドに住んでいる人も誰がそこに長く住んでいるかはわからないものなのではないかと考えました。土地勘のない人に聞いてくるなんてとても面白く感じました。

海外へ行ったときにとっても重要なことの一つは食事に関することだと私は考えます。土地が違えば食べ物は大きく変わります。そして食べ物は時にその地での生活に順応できるかどうかにも関係してきます。アイルランドでは毎日少なくとも一度はジャガイモを食べていました。日本ではジャガイモは主食ではなくおかずの一つなので主食として食べるのはとても違和感がありました。私は大学でドイツ語を複言語として選択したのでジャガイモを主食とする国があることは知っていましたが、それがアイルランドにも当てはまるとは考えていませんでした。ジャガイモはおかずという先入観を持ってアイルランドで食事すると、今日の夕食は主食を食べた気がしないがおなかはいっぱいだという変な気持ちになりました。時々お米も出てきましたが、日本の米と違って粘り気が少なく、お米自体に味があまりないので、そのままではあまりおいしくないと感じました。しかし、こういう違う食文化こそ、日本には経験のできないことだと思うと、とても面白く感じます。

アイルランドでは英語以外にアイルランド語もたくさん見ました。私のホストファザーも親はアイルランド語を話していたから自分も聞くことぐらいはできると言っていました。私は最初、アイルランド語は日本でいう方言みたいに結構話せる人がいると考えていましたが、聞いてみたところもうあまりしっかりと話せる人というのは少ないのだと感じました。あるテレビ番組ではアイルランド語を習うために芸能人がアイルランド語を話す人たちがある村に行くという企画をしていました。しかし、バスの表示や道路の標識などには必ずアイルランド語が大きく載っています。バスの音声案内もしっかりとアイルランド語があります。話せる人がいなくてもその言語を使い続けるのが不思議でもあり、しかしとても素敵なことだと私は考えます。

この研修でアイルランドの国の人たちはアイルランドという国のことがとても好きなのだということがよくわかりました。聖パトリックスデーが近かったというものもありますが、アイルランドのいたるところで緑色のものが売っていたり、国旗の色のものが売っ

ていたりしていました。日本人も日本のことが好きな人がたくさんいますが、わざわざ国旗の色の服だったり物だったりを買ったりはしないので面白い違いだと思います。出発前はこんなに自分の国の色を前面に押し出すような物がたくさんあるなんて思わなかったのですが、そのおかげでお土産も探しやすかったですし、アイルランドの人はアイルランドがとても好きなのだということがよくわかりました。海外へ出るとその国のとてもいいところがたくさん見えますが、逆に悪いところも見えてしまいます。そのたびに私は日本のいいところをたくさん発見します。初めて4週間という長い期間の渡航をして、日本の良いところを再確認しました。アイルランドで私がたくさん親切にしてもらったように、日本に来てくれる外国の方々に何か関わってみたいと考えるようになりました。アイルランドでたくさんアイルランドのいいところを教えてもらったように、私も来てくれた人にそういうことがしてみたいです。日本のことを誰かに自慢したいという気持ちになりました。この研修でこれから挑戦してみたいことが増えました。自分が大学にいる間にできないことがないか探してみようと思います。機会があればまたアイルランドに行きたいと思います。

2022 年度春期アイルランド研修レポート

アイルランド研修では、自発的に行動する力をつけることができたと考える。これまでの私は自分から話しかけることが得意ではなく、話しかけられた時に話し返すということが多かった。しかし、アイルランドでは分からないことが起きた時に自分から誰かに聞かないと解決することができなかつた為、自ら行動するように心掛けていた。ホストファミリーと生活している中で、理解できない言葉があった時は聞き返し、授業中も分からないことがあった時にはそのまま諦めてしまうのではなく、理解できるまで説明をしてもらうようにしていた。また、分からない単語をすぐに調べてしまうのではなく、一度マーカーを入れ、分かっている人に英語で説明してもらうことはとても私にとって役に立ったと思う。

また、私の DCU でのクラスは韓国や中国、そしてトルコやモンゴル出身の方々がいて、同年の人や目上の方々もいて、さまざまな国籍から集まり、年齢にも差があって初めはとても緊張した。しかし、誰もがお互いに理解し合っていて、お互いを大切にする様子が初日から見て取れた。年齢が上の方と接する時も、何か差を感じさせることなく、誰もが平等に学ぶことができる環境に私も入ることができ、異文化理解とはこういうことなのだと感じる場合がよくあった。先生はよく授業内において、出身別でそれぞれの考え方を聞いていくことがあり、日本ではこのように異文化を直に学べる機会はあまり多くないため興味深い経験をすることができたと考える。

そして、今回の研修ではホストファミリーと生活することの難しさを学んだ。ホストファミリーにもさまざまな方がいて、私たちに尽くそうとしてくれる方や必要最小限の生活を与えてくれる方など、アイルランドでの生活は興味深いものであった。私は初めて海外研修に参加し、初めての海外であった為、暮らし方の違いにも驚くことが多々あった。洗濯の頻度で見ても、日本では毎日することが基本的であるがアイルランドでは異なり、これまで当たり前だと思っていたことが基本ではないのだと改めて考えさせられた。

今回の海外研修において、英語を話すことに対する恥ずかしさを捨て、いかに自分から話し始めることが大切なのか学ぶことができた。出発前と比較して大きく変化したことは、文法が少し間違っている相手には伝わり、相手が意味を読み取ってくれる場合や先生やホストマザーが訂正してくれる場合もあり、とりあえず自分が考えたように、話したいと思ったことは下手でも全部伝えてみようと思えるようになった。これまでの大学の授業では、間違えることに不安を感じ、自分から話してみようと努力することが少なかったように感じる。しかし、ホストファミリーとの生活を経て、会話を続けることに重点を置き、思い出せない単語があったとしてもそれを他の単語に言い換えてみたり、ホストマザーが話した分からない単語や意味があったりしたときには、それを調べるのではなくホストマザーに説明してもらうことによってさらに英語を学ぶ機会が増えたと思う。

今回の研修での経験は、今後の大学の授業において活かされると考える。英語を自発的に話すことに対する不安が研修前と比べると圧倒的に減っている為、これで満足するのでは

なく、この気持ちを維持するためにも学んだことを日本でも継続していきたいと思う。また、ホストマザーは私に非常に親切であり、相手を思い行動してくれることが多々あった。初対面の相手にも、広い心で受け止めたり、さまざまな面でサポートをしてくれたりして、国籍や言語が異なる相手にも誰にでも平等な生き方ができるように努めたい。